



# 胚盤胞に育たず 初期胚移植も未着床。 今後できることは？



40代の治療では「採卵できる個数が少ない」「胚盤胞に育たない」「初期胚を移植しても着床しない」など、複数の要因が重なるケースも多いようです。このような方が今後できることは？ うめだファティリティークリニックの山下能毅先生にお話を伺いました。

## あさひさん（40歳）からの質問

### ● 胚盤胞まで育たない

受精卵が胚盤胞まで育たないのが悩みです。高刺激をしても多く採卵できないので、自然周期に変更し、注射を併用しています。3日目に凍結したものを3回移植しましたが、1度も着床したことがありません。今は治療を休んでいます。しかし、年齢やAMHも0.71ng/mlと低いので焦る気持ちもあります。自然に任せていても授からないのが残念です。自己努力も全然足りないので、また通院する自信もなく、中途半端でもやめます。（身長165cm、体重70kg。チョコレート嚢胞があります）

## 食事や運動などのセルフケアでも 卵巣機能の改善が期待できる

——あさひさんのデータについて気になる点がありますか。

山下先生 ● AMH（抗ミュラー管ホルモン）0.71 ng/mlは4年前の数値とのことです。この間に変動しているかもしれません。適切な治療をするためにも、再検査をして現在の卵巣状態をきちんと把握しておかれるといいですね。それと身長165cmに対して体重70kgはやや肥満すぎです。肥満型の方は妊娠そのものや、妊娠中のリスクが高くなります。近年注目されているプレコンセプションケアを参考にされて、できるだけ適正なBMI（体格指数）に近づける妊娠しやすい体に整えていきましょう。

その一つの方法としてサプリメントの摂取もおすすめです。たとえばL-カルニチンやDHEA、ポリフェノール、レスベラトロールは卵巣機能を向上させる作用があります。最近では着床を助けるというビタミンDも注目されています。さらに、骨盤の血流を上げるウォーキングやエクササイズなどの運動習慣を取り入れるといいですね。そうすることで卵巣機能が良くなることもあります。

## 移植のチャンスを増やすためには 良好な初期胚を移植するの1つ

——胚盤胞と初期胚どちらを移植するのがいいのでしょうか。

山下先生 ● AMHが1ng/ml未満と低いと、やはり採れる卵子の個数は少なくなります。とくに自然周期では1個程度しか採れません。レットゾール（またはクロミッド®）と少量の注射剤を組み合わせる方法やアントゴニスト法などのマイルドな刺激で、複数個の採卵をめざされてはいかがでしょうか。

また、あまり胚盤胞にこだわらず、良好な初期胚を確保して移植するのも一つの方法です。胚盤胞の成長率は年齢が若くて健康な方でも40%程度です。採卵個数が多い方は胚盤胞に育て移植できる可能性も高いですが、もともと採卵個数が少ない方は胚盤胞に育つ確率が低くなり、移植の機会自体が失われます。一番の目的は健康な赤ちゃんを授かることです。できるだけ採卵個数を増やして、移植の機会を増やすことが大事です。たとえば40歳ぐらいの初期胚であれば、1回で2個移植するのが一般的です。移植は2

3回を想定し、4〜6個の初期胚を確保できるのが理想です。最近では、胚盤胞だけでなく初期胚のグレードを調べる評価法も確立し、媒精後1〜3日目の初期胚を細かく評価して良好胚を選別することができます。

### 年齢とともに胚の染色体異常も増加

### 胚盤胞は着床前検査なども念頭に

——着床しない原因の一つにはチヨコレート嚢胞も影響しているのでしょうか。また今後のアド

バイスをお願いします。

山下先生 ●チヨコレート嚢胞の大きさにもよりますが、あさひさんはAMHが低いので、手術を優先すると卵巣機能がさらに低下するリスクがあります。たとえば、チヨコレート嚢胞が5cm以上で手術の必要性が高いようでしたら、まずは採卵して複数の胚を凍結してから手術されるといいでしょう。その後に移植すると着床率が上がるかもしれません。

また、40歳を超えてくると胚(受精卵)の染色体異常の割合が増え、見た目の良い胚でも、その

うちの半数は染色体異常の可能性があります。40歳以上の胚盤胞移植が必ずしもいいというわけではありません。妊娠できたとしても流産をはじめ、さまざまなリスクをともなうことも考えられます。この先、胚盤胞まで育ち、移植しても結果が出ない場合は、PGT-A(着床前胚染色体異数性検査)をはじめ、子宮の着床環境を調べるERA(子宮内膜着床能検査)、EMMA(子宮内膜マイクロバイオーム検査)、ALICE(感染性慢性子宮内膜炎検査)なども検討されるといいと思います。

## 妊娠に近づくためにはまずは移植を。 胚盤胞にこだわらず、 良好な初期胚を移植するのも一つ。

### わたしのマイルール！

35歳から電車通勤に切り替えました。車内では本やタブレットで情報収集したり、時に目を閉じて体を休めたりと、約40分間の通勤時間を有意義に過ごせます。また毎年、学生インターンを受け入れ、若い人から新しい情報を得て刺激を受けています。同時に産婦人科に興味をもってもらい、将来この領域で活躍する医師が増えてくれることを期待しています。

- プレコンセプションケアで卵巣機能を改善。
- 良好な初期胚を確保して2〜3回移植する。
- 胚盤胞に育てば着床前検査や子宮内膜検査を。

Doctor's advice



### うめだファティリティークリニック 山下 能毅 先生

大阪医科大学医学部を卒業後、北摂総合病院産婦人科部長・大阪医科大学産婦人科病棟医長、医局長、講師として、不妊治療や腹腔鏡手術に積極的に取り組む。2014年、宮崎レディースクリニックの副院長に就任し、2017年4月、同院の院長に。

### 〈取材協力〉

うめだファティリティークリニック  
大阪府大阪市北区豊崎 3-17-6



先生の過去の  
記事はこちら